

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	総合国語 I B	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	商船学科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	「国語総合 現代文編」「国語総合 古典編」 (大修館書店)						
担当教員	岡部 寛子						
到達目標							
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。小論文を書く力の土台を築く。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものの見方を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		評論文や小説の構成を把握し、論理を追って読み取り、主題を表現することができる。		評論文や小説の構成を把握し、ある程度論理を追って読み取り、主題を表現することができる。		評論文や小説の構成を把握し、論理を追って読み取り、主題を表現することができない。	
評価項目 2		自分で興味を持ったものを調べ、わかりやすくレジュメにまとめて発表することができる		自分で興味を持ったものを調べ、レジュメにまとめて発表することができる		自分で興味を持ったものを調べ、わかりやすくレジュメにまとめて発表することができない。	
評価項目 3		日本の代表的な古典作品を読み、内容を理解して音読し、説明することができる。		日本の代表的な古典作品を読み、ある程度、内容を理解して音読することができる。		日本の代表的な古典作品を読み、ある程度、内容を理解して音読することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものの見方を身につける。					
授業の進め方・方法		講義形式で行うが、音読等による授業参加を加えて理解を深める。年に一度、調べた者をレジュメにまとめ、みんなの前で発表する。					
注意点		◆関連科目 内容の関連：総合国語IA・総合国語IB（後期） コミュニケーション能力：外国語・保健体育 人間の探求と複眼的思考：歴史・政治経済 ◆受講する皆さんへのメッセージ： ・学生の積極的な参加、発言、介入を期待している。 ・双方向のやりとりを増やし、理解の定着を目指す。 ・理解度を確認し進めるため、シラバスの若干の変更はあり得る。 ・的確な板書を心がけ、ノートをとる時間を確保する。 ・評価が60%に満たない学生には、追認試験を行うことがある。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	枕草子 はしたなきもの		枕草子の文学史的な位置づけを説明することができる。 「はしたなきもの」を音読し、だいたいの内容を理解するように努める。 内容を分析し、なぜ「はしたなし」なのかを理解することができる。文法的な理解をし、口語との違いを知ることができる。		
		2週	枕草子 雪のいと高う降りたるを		「雪のいと高う降りたるを」を音読し、だいたいの内容を理解するように努める。 内容を分析し、内容を理解することができる。		
		3週	枕草子 雪のいと高う降りたるを		この時代の宮中の様子と中宮と作者の関係を理解することができる。敬語を理解することができる。清少納言と紫式部について調べて発表する。		
		4週	なめとこ山の熊		全文を音読し、作者の意図やテーマを考え、自分の言葉で表現することができる。		
		5週	なめとこ山の熊		熊との関わりをとおして、小十郎の心理を読み取り、説明することができる。		
		6週	なめとこ山の熊		熊との関わりをとおして、小十郎の心理を読み取り、説明することができる。		
		7週	なめとこ山の熊		熊との関わりをとおして、小十郎の心理を読み取り、説明することができる。宮澤賢治の他の作品について調べて発表する。		
		8週	後期中間試験		既習事項の確認と定着を図る。 自身の学習の仕方を点検する。		
	4thQ	9週	伊勢物語 芥川		伊勢物語の文学史的な位置づけを説明することができる。 芥川を音読し、内容を理解して説明することができる。		
		10週	伊勢物語 あづま下り		あづま下りを音読し、内容を理解して説明することができる。		
		11週	伊勢物語 あづま下り		あづま下りを音読し、内容を理解して説明することができる。		
		12週	自然と人間の関係を通して考える		全文を読み、構成を考え、テーマを把握し説明することができる。		

		13週	自然と人間の関係を通して考える	構成を念頭に置き、各段落の細部を理解し、説明することができる。
		14週	自然と人間の関係を通して考える	構成を念頭に置き、各段落の細部を理解し、説明することができる。現代の自然保護・環境保護の考え方を具体例を通して発表する。
		15週	期末試験	既習事項の確認と定着を図る。
		16週	答案返却	答案を返却し、学習を確認する。 一年間学習してきた百人一首を競技を通して確認し、伝統的な日本の文化に触れる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	

				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	10	0	0	0	15	100
基礎的能力	75	10	0	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0